

第7回 地域福祉部会 ～多世代による地域ささえあい～ 摘録

日 時：平成 29 年 5 月 1 日（月） 18:00～20:00

場 所：区役所第 1 会議室

出席委員：中里部会長、川田委員長、青柳副委員長、老門（聡）委員、大久保委員、
小田委員、椿委員、滝本委員、中村委員（9 名）

欠席委員：葛西委員、砂川委員（2 名）

資 料：次第

資料 1 委員名簿

資料 2 第 6 期審議スケジュール案

資料 3 第 6 回地域福祉部会 審議要点メモ及び委員からの情報提供

その他 第 6 回地域福祉部会議事録（案）

中間報告書

参考事例資料：認知症サポーター・フォローアップ関係

①平成 29 年度フォローアップ講座のチラシ（三条市）

②フォローアップ講座情報（川崎市幸区）

③オレンジボランティア（高崎市）

こども食堂関係

①アリーノにおける「子ども食堂」の実施 ニュースリリース

■資料確認・参考事例資料の紹介

■議事

（1）委員からの情報提供（公開）

（2）取り組み実施に向けた意見交換（公開）

（3）今後の取り組みの方向性（公開）

■事務連絡（公開） 今後の日程等の確認など

第7回 地域福祉部会 審議結果要点メモ

※各意見の詳細等は次ページ以降参照

■今後の取り組みの方向性

1) 認知症サポーターフォローアップ講座の開催

開催候補日：9月2日（土）の午前・午後／9月9日（土）の午後

テーマ：「地域みんなで支える方法・しくみをみんなで考える」

→講座と合せて、地域福祉の情報共有や団体が繋がる場を目指す。

→次回、次々回の部会で具体的な設計を検討する。

2) 認知症カフェ「土橋カフェ」の視察（有志）

→6月7日（水）に実施。委員、コンサル、事務局で10名前後参加予定。

→12:45宮前平駅、もしくは13:00現地集合。

→会場内では固まらず、バラバラになっているいろいろな方とお話をする。

事例の検討

お寺で子ども食堂（麻生区） アリーノ子ども食堂（指定管理者自主事業）

宮前第一地区「なかよしサロン」（企画） 中原区内「なかわく」「こすわく」

「荻窪家族プロジェクト」「荻窪暮らしの保健室」 「こまじいのうち」（東京都文京区）

「笑恵館」…パン屋を中心としたスペース 「ふらっと大塚」（宮前区大塚）

地域福祉コンシェルジュ（中里部会長案）

- ・世代間で地域福祉の知識や理解を共有→適切な支援や仕組みに繋ぐ人材を育成
- ・コンシェルジュがいる店、福祉相談実施などの掲示
- ・民生委員以外の方にも役割をはたしてもらいたい。（兼任もOKだが）
- ・名称から相談できるイメージが伝わる。つなぐ役割を果たすには研修等が必要。
- ・川崎区渡田地区の「地域福祉協力員」…民生委員の下で見守り等のお手伝い、町会が任命

認知症サポーター養成講座のフォローアップ

- ・取り組みを地域に発信、町会単位等での講座開講の拡大
- ・修了者に地域で活躍する場やきっかけを与えるしくみ、活動情報の提供や勧誘
- ・様々な立場の方が一緒に学び、情報交換・共有する場
- ・専門家との接点づくり、気軽な相談の場…例：弁護士、歯医者、介護士…

1 事例等の情報提供の補足（資料掲載内容に加えられた情報など）

■子ども食堂

- ・麻生区では檀家さんの協力、近隣農家の食材提供などを得て、お寺を会場に運営している食堂の例がある。宮前区の特徴を活かしながらやれると良い。（青柳）
- ・宮前第一地区の「なかよしサロン」は、地域の子供達に来てもらいたいと考えているが、アドバイス等あればぜひいただきたい。（中里）
- ・幸区の青山さんが、昨年暮れに実験的に開催した子ども食堂に関わった人たちがアリーノや高津区千年町会などそれぞれの地域で新たな取り組みを始めようとしている。今後取り組みは増えていくのではないか。（中里）
- ・アリーノの子ども食堂は、指定管理事業者の自主事業として企画された。食育、多世代交流等のイメージもあり、館長の想いも強くあったようだ。（事務局・川田）
- ・馬絹地区会館2階に事務所がある「社会福祉法人みのり会」は、軽い障がいをもつお子さんたちと一緒に食事会の開催を希望している。実現すれば会のアピールにもなると考えられている。（中村）

■こどもの居場所づくり

- ・「なかわく」は今年度、実施箇所が増えて2か所になった。市の事業委託を受けているので、なんとかなっている。（大久保）
- ・「こすわく」は行政の資金支援を受けておらず、資金面での苦労がある。企業から頂いた協賛金で、講師や軽食費用などを賄っているが、会場家賃（マンションの一室、月8万円）など寄付を募りながらなんとかやっている状況だ。（大久保）

■地域の縁側・多世代の居場所づくり

- ・「荻窪家族プロジェクト」は、住み慣れた地域で昔からの知人・友人たちと長く住むために、相続土地に自ら高齢者のシェアハウスを建てた例。地域に開かれた様々なアクティビティを展開していて、多くの参加がある。ただ、場所柄家賃が高く、まだ空き室がある。（大久保）
- ・「笑恵館」は自宅母屋を改造して、1階にテナントで入ってもらったパン屋を中心にしてコミュニティスペースを運営している。パンを目当てに集まってくる方も多い。運営のアドバイザーが付いている。（大久保）
- ・「こまじいのうち」は大家の人柄によるところが大きい。当初から町会との連携も良く、町内掲示板にイベント予定が貼られていた。社協の協力も大きく、担当者が開設時間はずっと現場にいる印象だ。（大久保・川田）
- ・文京区では「こまじいのうちに続こう」という動きが生まれ、区内で6、7か所、空き家活用の地域の居場所ができ、活発に活動している。（大久保）
- ・「ふらっと大塚」は、4月に立ち上がった。町会が会長を始め、非常に協力的な地域で温かい雰囲気で運営されている。（中村）

■担い手候補・新たな取り組みの可能性など

- ・「いぬくら子ども文庫」は、毎月、季節の行事を開催しており、若い母親たちが集まる。犬蔵小学校区内。奥さんが手工作が得意で指導などもしている。(小田)

2 取り組み実施に向けた考え方・意見など

■子供食堂、多世代の居場所

- ・飲食を扱う取り組みは衛生管理体制が課題だ。(青柳)
- ・多世代が集まって、学んだり、話し合い、関係づくりができる場づくりが進めばと感じている。(青柳)
- ・成功のポイントは、「いろいろな人をまきこんでいく」「無理せずに、できることをやっていく」ではないか。(大久保)
- ・地元地域から参加がメインになる。それぞれの地域で担っていく事が重要だ。(小田)
- ・居場所や食堂づくりは、区民会議が主体となることは難しい。区内の新しい動きについて、ケーススタディとして見学させていただき、支援など考えてはどうか。(コンサル)
- ・アリーノでの取り組みでは、ボランティア募集で、運営スタッフがある程度確保できたようで、調理者も活動実績のある地域の方だ。(青柳)
- ・南野川の不登校児童支援のNPOで、地域の畑で野菜の提供を受けて、子ども食堂に提供したという話を聞いた。(中里)

■「地域福祉コンシェルジュ」の提案

- ・地域福祉や地域の様々な活動について、世代間で共通の知識や理解を得られれば、適切な支援や仕組みに繋ぐことができる人材が増え、地域の強味になるのではないかと、「地域福祉コンシェルジュ」として要請するしくみを考えてみた。(中里)
- ・砂川委員が「お店に来るお客さんに地域包括支援センターに行ってもらうには、どうしたらいいか」と話され、「支援センターに行くのではなく、支援センターに来てもらえば良い」と聞いて、なるほどと思ったことが発案のきっかけ(中里)
- ・「コンシェルジュがいる店」「福祉相談実施中」の掲示ステッカーなどつくっても良い。(中里)
- ・「地域福祉コンシェルジュ」の発想は良い。地域福祉の制度や施設へつなぐ機能を区民がもっと果たせると良い。地域の中に役割をもった人がいると、わかりやすく、動きやすく、相談しやすくなるだろう。(川田)
- ・私の地域の活動「見守り支援ホットライン」は、活動開始当初は怪しまれることもあったが、続けることで定着し、理解や信頼を得られるようになった。地域の中で認められることも重要だ。(川田)

- ・ コンシェルジュと民生委員の違いはどう考えているのか？→民生委員以外の方にも役割を果たしてもらいたいと思って地域福祉コンシェルジュを考えた。両方を兼任される方ももちろんいると思う。(中里)
 - ・ 民生委員として様々な研修を受けている。自ら困っている人を助けようとするのではなく、適切な場所に繋げばよいという考え方で活動に取り組んでいる。(老門)
 - ・ 昨年 12 月の改選前後は特に向ヶ丘地区などで民生委員の欠員があったが、新しい会長の熱心な説明と依頼活動で、今は市内一番かというほどの体制になった。強制ではなく、楽しみながらやれば良いと思う。(老門)
 - ・ 活動を通じていろいろなことがあるが、視野を広く持ちながら、人と会うことを楽しみに活動している。(中村)
 - ・ 民生委員一人の担当世帯数や人数が多くて、手が回っていない面もある。(川田)
 - ・ 福祉に関する知識が無い方に「民生委員」といっても何をするのかかわからないが、「地域福祉コンシェルジュ」は名称から相談できるイメージが沸く。(コンサル)
 - ・ 人をつなぐ役割を意識するならば、しっかりとした研修などが必要だ。(コンサル)
 - ・ 川崎区の渡田地域では町会独自に「地域福祉協力員」を任命し、見守り対象者の生活サインの確認など日常の中で支援し、何か気が付いたことがあえれば、民生委員に連絡するしくみがある。(コンサル)
- **認知症サポーターの養成やフォローアップ**
- ・ 認知症サポートの取り組みを地域にもっと発信し、町会単位で養成講座がもっとできるとよい。私の地域でも深刻な認知症の症例を聞くことがある。(中村)
 - ・ オレンジリングを取得された方に地域での活躍の場を与えるしくみを考えてはどうか。例えば講座終了直後の意識も高いタイミングで、地域の福祉活動を紹介、勧誘する場を設定する。(コンサル)
 - ・ フォーラムは「様々な立場の方が一緒に勉強できたのが良かった」という感想が多かった。年数回でも良いので、フォローアップをどのようにするか考えたい。(川田)
 - ・ 家族会の方のお話が非常に好評だった。(川田)
 - ・ 郵便局の職員が「研修は受けたが、その後どうしたらいいのかわからない」という話を聞いた。そういう方は多いのではないか。(川田)
- **専門家との接点づくり**
- ・ 土橋カフェにボランティア参加し、参加者の相談にのっている弁護士さんが非常に人気だ。カフェの時間の中については無料で相談や質問を受けてくださる。専門家と繋がっていくことがすごく大事なのではないか。(老門)

- ・「荻窪家族プロジェクト」中の「荻窪暮らしの保健室」は、毎回、設定されたテーマに合わせて介護士、歯医者などの専門家に話を聞き、質問や相談ができるカフェスタイルの場だ。(大久保)
- ・「荻窪暮らしの保健室」は月1・2回開催している。例えば誤嚥の原因や予防法など歯医者^がわかりやすく解説してくれ、非常に勉強になり、人気がある。(大久保)
- ・「暮らしの保健室」は秋山正子さんという著名な方による前例があり、名称をお借りする了解をとった上で実施している。(大久保)

3. 今後の取り組みの方向性

■ 認知症サポーターフォローアップ講座の企画

- ・年度末のフォーラム内でフォローアップ講座を企画してはどうか。受講直後の活動勧誘なども併せてできれば、地域の担い手確保につながるのではないか。(コンサル)
 - ・「荻窪暮らしの保健室」や「地域福祉コンシェルジュの育成」と合わせたような場ができれば、面白そうだ。(大久保・川田)
 - ・5期提案である「ほっとやすらぎステーション」も、フォローアップがもう少しできればと感じている。(川田)
 - ・秋頃に認知症サポーターのフォローアップ講座をやりたい。それほど大きな場でなくても良い。前回のフォーラムの参加者、企業などに声かけしたい。(青柳、川田)
 - ・ある認知症の一人暮らしの方が、地域のセブンイレブンのお店がなくなったことがきっかけで、買い物等ができなくなり、施設に入らざるを得なくなった。店舗が支えてくれていたのだと思った。そういう話も伝えたい。(老門)
 - ・民生委員にも声かけしたい。町内会の掲示板での広報よりも、老人会などの会合の場で直接宣伝できると良い。
 - ・認知症の予防方法が聞きたい。(中村)
 - ・家族会もぜひ呼びたい。体験談は良い。(老門・川田)
 - 開催候補日：9月2日(土)の午前・午後、9月9日(土)の午後
 - テーマ：「地域みんなで支える方法・しくみをみんなで考える」
 - 認知症サポーターのフォローアップ講座と合せて、地域の福祉の情報や団体が繋がる場を目指す。
 - 次回、次々回の部会で具体的な設計を検討する。
- #### ■ 認知症カフェ「土橋カフェ」の視察
- ・土橋カフェの相談の現場などもぜひ見てみたい。(中村、青柳)

- ・ 土橋カフェは毎月原則第一水曜に開催しており、毎回超満員。全国から視察がある。次回は地元の参加者を増やすねらいで、地域の昔の姿や人が映像化された小倉さんの映画（「オオカミの護符」とは別作品）を上映予定だ。（老門）
- ・ 専門家の方も私服で参加いただいております、一見、わからないようにして、気になる方に声掛けなど行っている。（老門）
- ・ ウェイトレスなどスタッフにも認知症の方がいる。役割を与えるといきいきと活躍してくれ、症状の悪化の予防にもなる。（老門）
- ・ 認知症サポーター、民生委員やケアマネなども数十人参加しており、地域で気になる方、カフェに来てほしい方の情報なども入ってくるようになっており、地域で誘ったり、話し相手になれるよう取り組んでいる。（老門）
- ・ 土橋カフェは取り組みが地域に浸透することで、講師も無料で喜んで来ていただけるようになった。地域のために出ることが間接的な宣伝になる。（老門、大久保）
 →6月7日（水）に視察を実施する。
 →参加予定委員6名、コンサル、事務局を合わせて10名前後参加予定。
 →12:45宮前平駅、もしくは13:00現地集合。
 →会場内では固まらず、バラバラになっているいろいろな方とお話をする。

■その他

- ・ アリーノの子ども食堂も見学等が可能かどうか確認する。
- ・ 地域の普通の食堂が、その時だけ子ども食堂になる例もある。行政では、なかなか全ての地域の取り組みを把握しきれていない面がある。（事務局）